

【研究費区分】：研究環

【研究代表者所属】：都市環境学部観光科学科

【研究代表者氏名】：菊地俊夫

【研究代表者氏名フリガナ】：キクチ トシオ

【研究代表者職】：教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

- ・都市環境学部地理環境学科，若林芳樹，教授
- ・都市環境学部地理環境学科，矢部直人，准教授
- ・都市環境学部観光科学科，杉本興運，助教
- ・秀明大学・観光ビジネス学部，飯塚 遼，専任講師（首都大学東京客員研究員）
- ・レスター大学地理学科，マーティン・フィリップス，教授（首都大学東京客員教授）
- ・レスター大学地理学科，ロレッタ・ リース，教授

【研究環組織名】：大都市圏のジェントリフィケーションの研究

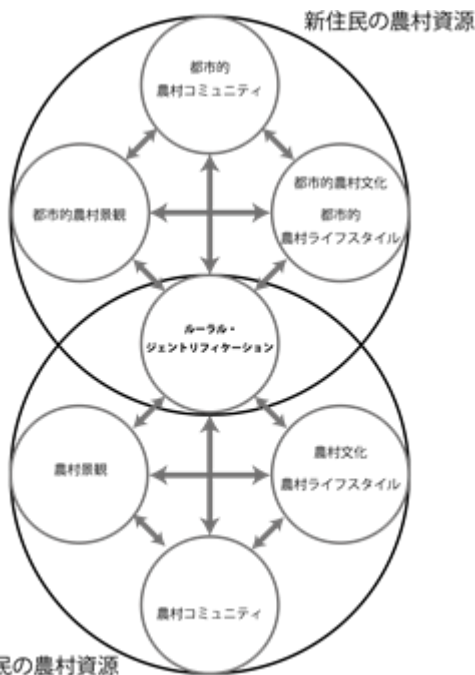
【研究環 HP（*本研究環組織の HP を作成している場合は，その URL を記入してください。）】

【研究環の活動概要と，ここで形成された研究グループ・研究拠点の今後の研究活動について】（600～800 字程度で記入。図（組織図含），グラフ等の使用も可。）

・本研究は先進研究地であるイギリスと東京大都市圏を比較することによって多様化するジェントリフィケーションにおけるネクサス（相互関連性）を捉えることを目的とした。本研究は2018年9月には首都大学東京国際交流会館で「大都市圏におけるジェントリフィケーション」の、日本地理学会秋季学術大会（和歌山大学）で「ジェントリフィケーションのフロンティア」の国際フォーラムをレスター大学

地理学教室と連携して開催した。これらの国際フォーラムとレスター大学との共同研究の具体的な成果として、大都市域におけるジェントリフィケーションの特徴を明らかにした。第一に、ジェントリフィケーションの発現地域は、高度経済成長期ではインナーシティであったが、経済低成長期の地価下落以降、CBDに近接した地域となった。近年では都心から離れた中小工場の集積地域で発現が多くみられる。第二に、ジェントリフィケーションの発現した要因は軽工業の工場跡地の存在であり、それらに隣接する住宅の立ち退きも大きな要因となる。また、業務用地が共同住宅の建設用地となることも、ジェントリフィケーションの拡大要因である。第三に、超高層共同住宅の建設を可能にした規制緩和も、ジェントリフィケーションの誘因として重要であった。

都心におけるジェントリフィケーションはカウンターア



旧住民の農村資源

図1 ルーラルジェントリフィケーションの枠組み

ーバニゼーションとともに農村地域に波及するようになる。レスター近郊農村の事例を中心に明らかにされたルーラルジェントリフィケーションの都市ー農村ネクサスのモデルが図1に示されている。それによれば、ルーラルジェントリフィケーションを繋ぎ手（ノード）とすることにより、農村にもともと居住していた住民と農村に流入した新住民が農村資源の活用を共働するようになり、地域の農資源は保全され適正に活用されるようになる。つまり、ルーラルジェントリフィケーションは旧住民コミュニティと新住民コミュニティの繋ぎ手と機能し、それぞれのコミュニティの社会属性やライフスタイル、および文化属性や居住景観を融合させ、地域コミュニティの二分化を抑制する働きをもつといえる。

【学会発表（発表題目，発表大会名，年月を記入）】

■国際学会発表

- ・ Kikuchi, T. “Development of wineries and its impact on rural commodification of Cowichan Valley in Vancouver Island, Canada” Reginal Conference of International Geographical Union(IGU) 2018: 8月6～10日（カナダ・ケベックシティ・ケベックシティコンベンションセンター）
- ・ Kikuchi, T. “Commodification of rural spaces with the development of urban farming in the Vancouver metropolitan area, Britishi Colombia, CANADA” EUROGEO Conference 2019: 3月14日～15日（フランス・パリ・ミレニアムホテルカンファレンスホール）
- ・ Bettaieb, B. and Wakabayashi, Y. 2018. The role of geospatial information of public signs in navigating foreign tourists to central Tokyo. 日本地球惑星科学連合大会，2018年5月24日，幕張メッセ（千葉市）
- ・ Wakabayashi, Y. 2018. Variation in the use of geospatial information on the web: mainly focused on the current conditions and intergenerational differences of map use. IGU Regional Conference in Quebec City, 2018年8月10日，ケベック市（カナダ）.
- ・ Iizuka, R. , Kikuchi, T. and Phillips, M. “A new perspective on the landscape restructuring caused by rural gentrification in a cosmopolitanised commuter village” Reginal Conference of International Geographical Union(IGU) 2018: 8月6～10日（カナダ・ケベックシティ・ケベックシティコンベンションセンター）

■国内学会等の発表・講演

- ・ 菊地俊夫 “小笠原諸島の概要、振興開発とその取り組みを中心として（基調講演）” 小笠原諸島返還50周年記念シンポジウム，2018年5月24日（都議会議事堂1階都民ホール）
- ・ 菊地俊夫 ” 地域共創や研究環としてのジェントリフィケーション” 首都大学東京地域共創科学研究センター・研究環共催 国際フォーラム，2018年9月21日（首都大学東京国際交流会館大会議室）
- ・ 菊地俊夫 ” 大都市研究におけるジェントリフィケーション研究の可能性ーウェールズ・ガワー半島の事例を通じてー” 首都大学東京地域共創科学研究センター・研究環共催 国際フォーラム，2018年9月21日（首都大学東京国際交流会館大会議室）
- ・ 菊地俊夫 “高校新設科目「地理探究」と観光教育ー観光学の視点からー” 2018年日本地理学会秋季学術大会，2018年9月22日（和歌山大学）
- ・ 菊地俊夫 “ジェントリフィケーションのフロンティア” 2018年日本地理学会秋季学術大会，2018年9月23日（和歌山大学）

- ・菊地俊夫 “地域共創と関連した国際シンポジウム” 地域共創科学研究センター年度報告会（ネットワークミーティング 2018）（基調講演），2019年1月28日，（首都大学東京国際交流会館大会議室）。
- ・若林芳樹 “シンポジウム「ジェントリフィケーションのフロンティア」コメント” 2018年日本地理学会秋季学術大会，2018年9月23日（和歌山大学）
- ・矢部直人 “東京都心部におけるジェントリファイヤーの生活時間” 首都大学東京地域共創科学研究センター・研究環共催 国際フォーラム，2018年9月21日（首都大学東京国際交流会館大会議室）
- ・矢部直人 “訪日外国人旅行者の周遊地域の分析” 愛知大学三遠南信地域連携研究センター越境地域政策研究フォーラム分科会「観光」，2018年12月22日，豊橋市（愛知大学豊橋キャンパス）
- ・杉本興運 “ジェントリフィケーションとツーリズム” 首都大学東京地域共創科学研究センター・研究環共催 国際フォーラム，2018年9月21日（首都大学東京国際交流会館大会議室）

【論文発表又は著書発行（発表題目，著者，発表誌又は出版社，年月を記入）】

■論文（査読付）

- ・菊地俊夫. 「地理探究」における観光教育の存在意義. 新地理, 査読有, 第66巻3号, 2018年12月, 81-85.
- ・菊地俊夫. カナダ・ブリティッシュコロンビア州のバンクーバー大都市圏における都市農業の発展にともなう農村空間の商品化. 観光科学研究, 査読有, 12, 2019年3月, 11-20.
- ・若林芳樹 2018. 統計からみた日本の空き家問題の地域的特徴. 統計 72巻2号: 2-8
- ・若林芳樹 2018. 現代世界の地図事情—標準化されるデータと多様化する表現—. 地図 63(12): 10-17.
- ・矢部直人 2019. ロンドン東部とオリンピック公園の現状. 都市地理学 14: 139-146.

■その他の論文

- ・菊地俊夫. 小笠原観光の持続的発展. 東京都小笠原支庁「小笠原支庁50年の記録」, 査読無, 2019年3月, 99-101.
- ・菊地俊夫. 地域共創や研究環の研究としてのジェントリフィケーション. 首都大学地域共創科学研究センター・研究環国際フォーラム「大都市圏におけるジェントリフィケーション」報告書, 2019年3月, 1-3.
- ・菊地俊夫. 大都市研究におけるジェントリフィケーション研究の可能性 —ウエールズ・ガワー半島の事例を通じて—. 首都大学地域共創科学研究センター・研究環国際フォーラム「大都市圏におけるジェントリフィケーション」報告書, 2019年3月, 64-70.
- ・杉本興運. ジェントリフィケーションとツーリズム. 首都大学地域共創科学研究センター・研究環国際フォーラム「大都市圏におけるジェントリフィケーション」報告書, 2019年3月, 57-63.

■著書

- ・Kikuchi, T. and Sugai, T. ed., "Tokyo as a Global City; New Geographical Perspectives". Springer, 2018年4月, 334 ページ.

【学術会議開催実績報告】

- ・首都大学東京地域共創科学研究センター・研究環共催 国際フォーラム「大都市圏におけるジェントリフィケーション」2018年9月21日（首都大学東京国際交流会館大会議室）

参加者：48名（内外国人6名）

概要：レスター大学の Martin Phillips 教授とロンドン大学の Hyun Bang Shin 教授、および大阪市立大学の藤塚吉浩教授を招聘し、「大都市圏におけるジェントリフィケーション」に関する国際フォーラムを開催した。大都市圏におけるジェントリフィケーションは、地域に流入してきた新住民と地域にもともと居住していた住民との関係が引き起こす社会経済構造や景観の変化を検討することが重要な課題であり、それは現在の混住化社会にとっても解明すべき重要な課題であった。本フォーラムでもジェントリフィケーションの重要性が確認されるとともに、都市におけるジェントリフィケーションと農村におけるジェントリフィケーションの共通性と関連性も確認された。それらの確認を踏まえて、ジェントリフィケーションの2つの側面（功罪）、すなわちネガティブジェントリフィケーションとポジティブジェントリフィケーションについて、ロンドンや東京、あるいは北米やアジアの大都市の実証的な比較研究に基づいて議論が参加者を交えて行われた。結果的には、新旧住民のコミュニティの繋ぎ手（ノード、あるいは結節点）としてのジェントリフィケーションあるいはジェントリファイアの役割が明らかになった。当日は台風の影響で雨模様の天気で、参加者は予定よりも少なかったが、有意義な議論が行われた。補足資料として国際フォーラムの報告書（印刷物）を提出する。

- ・研究環主催国際シンポジウム「ジェントリフィケーションのフロンティア」 2018年日本地理学会秋季学術大会、2018年9月23日（和歌山大学）

参加者：68名（内外国人21名）

概要：首都大学東京で開催された内容とほぼ同じであるが、事例研究として関西地域のものが加わった（具体的には、大阪大都市圏のジェントリフィケーションや京都のルーラルジェントリフィケーション）。国際シンポジウムの内容は日本地理学会のホームページに掲載されている e-journal で公表されている。

【科学研究費補助金への応募状況、採択状況】

- ・菊地俊夫：基盤研究（C）「フードツーリズムのフレームワークを用いた農村再生システムの地理学的研究」2017～2020年度（代表・継続）
- ・若林芳樹：科学研究費補助金基盤研究(A)「人と社会の側からみた地図・地理空間情報の新技術とその評価」2017～2019年度（代表・継続）
- ・矢部直人：基盤研究（C）「東京大都市圏都心および郊外における夫婦共働き世帯の生活時間に関する研究」2016～2019年度（代表・継続）

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- ・上野観光連盟：上野地域の観光活性化プロジェクト、上野の杜文化プロジェクト。
- ・上野文化の杜新構想実行委員会：UENOYES バルーン DAYS イベント評価プロジェクト
- ・東京都産業労働局観光部：東京における MICE の調査研究。
- ・東京都産業労働局農政部：東京における農地保全における市民農園・農業体験農園の役割に関する調査研究。
- ・Economic and Social Research Council Fund (UK): Explorations of comparative ruralism in the UK and Japan

【受賞等】

- ・若林芳樹：第13回日本地図学会賞（作品・出版賞）

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献，生涯学習支援・普及啓発，国際貢献・国際交流等]

- ・菊地俊夫：地理空間学会会長
- ・菊地俊夫：国土交通省審議会会長（小笠原島嶼地域振興部会）
- ・菊地俊夫：公益財団法人日本地図センター理事
- ・菊地俊夫：日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会（JONA）認証判定委員・委員長
- ・菊地俊夫：日本ジオパーク委員会委員
- ・若林芳樹：小平市産業振興基本計画検討委員会委員
- ・矢部直人：公益社団法人日本地理学会 集会専門委員会委員
- ・矢部直人：内閣府経済社会総合研究所 地域経済に関する研究会 研究協力員
- ・矢部直人：公益社団法人日本地理学会 代議員
- ・矢部直人：公益社団法人日本地理学会 集会専門委員会委員
- ・杉本興運：公益社団法人日本地理学会 総務委員会委員
- ・杉本興運：地理情報システム学会 代議員
- ・杉本興運：日本観光研究学会 研究分科会代表

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

(工業所有権の名称,発明者,権利者,工業所有権の種類・番号,出願年月日,取得年月日)

・

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名,所属,金額(円))

- ・菊地俊夫，都市官戸湯科学研究科観光科学域，75万円
- ・若林芳樹，都市環境科学研究科地理環境学域，35万円
- ・矢部直人，都市環境科学研究科地理環境学域，35万円
- ・杉本興運，都市環境科学研究科観光科学域，35万円
- ・飯塚 遼，秀明大学・観光ビジネス学部，25万円
- ・マーティン・フィリップス，レスター大学地理学科，25万円
- ・ロレッタ・ リース，レスター大学地理学科，10万円